

第 1 問

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	売買目的有価証券	1,970,000	未払金	1,970,000
2	備品減価償却累計額	70,000	備品	150,000
	現金	20,000		
	固定資産売却損	60,000		
3	当座預金	508,900	受取手形	511,000
	手形売却損	2,100		
4	受取手形	150,000	売上	350,000
	売掛金	206,000		
	発送費	6,000		
5	他店商品券	10,000	売上	12,000
	商品券	2,000		

【解説】赤字は 新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ

1. 社債の購入したときの仕訳を問う問題である。

P.100 参照

・社債を購入したときは「売買目的有価証券」で処理する。

(借) 売買目的有価証券 1,970,000

・取得原価の計算

$$\begin{array}{l} \text{買入単価} \\ @\text{¥}98.50 \times \end{array} \begin{array}{|c|} \hline \text{こゝにゆうくちすう} \\ \text{購入口数} \\ \hline \text{¥}2,000,000 \\ \hline \text{¥}100 \\ \hline \end{array} = \text{¥}1,970,000$$

・代金は、未払いとして計上した

(貸) 未払金 1,970,000

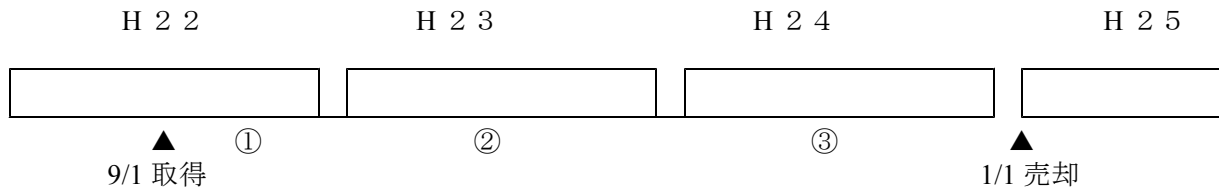
2. 「備品の売却」の仕訳を問う問題である

P.156 参照

・売却時点での備品に関する勘定を推定する。（「記帳は間接法」とあるから、備品勘定と累計額勘定に記入される）

備品	備品減価償却累計額
150,000	70,000
↑	
取得原価	

※備品減価償却累計額勘定の金額の計算



〈減価償却累計額の計算〉

$$\textcircled{1} \text{ (H22.9.1 ~ H22.12.31)} \quad \text{¥150,000} \div 5 \text{ 年} \times \frac{4 \text{ ヶ月 (9 月 ~ 12 月)}}{12 \text{ ヶ月}} = \text{¥10,000}$$

$$\textcircled{2} \text{ (H23)} \quad \text{¥150,000} \div 5 \text{ 年} = \text{¥30,000}$$

$$\textcircled{3} \text{ (H24)} \quad \text{〃}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} = \text{¥70,000}$$

・この備品を「処分」したので、両勘定の残高をゼロにする。

(借) 備品減価償却累計額 **70,000** (貸) 備品 **150,000**

・「売却代金は現金で受け取った」より。 (借) 現金 **20,000**

・貸借差額を求める。

借方が¥60,000 少ないので、借方に「固定資産売却損」を計上する。

(借) 固定資産売却損 **60,000**

3. 「手形の割引」の仕訳を問う問題である。

P.97 参照

・「奈良商店より受け取った約束手形¥511,000」より、約束手形勘定の借方に ¥ 511,000 が記入されていることがわかる。

受取手形 (資産)
511,000

・「手形の割引」は手形の売却と考えるので、割り引いたとき手形債権 (受取手形) が消滅する。

(貸) 受取手形 **511,000**

・「割引料」は手形売却損勘定 (費用) で処理する。

(借) 手形売却損 **2,100**

〈手形売却損の計算〉

$$\text{¥511,000} \times 0.03 \times \frac{50 \text{ 日}}{365 \text{ 日}} = \text{¥2,100}$$

・「残額を当座預金とした」 (借) 当座預金 **508,900**

4. 「約束手形の裏書譲渡」および「発送費の処理」の仕訳を問う問題である。

・「商品売り渡し」より、貸方は売上になる。

(貸) 売上 350,000

・裏書譲渡により手形を受け取ったとき、手形債権が増加する。

(借) 受取手形 150,000

・残額は掛けとした

(借) 売掛金 200,000

・発送費の処理について

※発送費 (¥12,000) 当店負担分 (¥6,000) … 発送費で処理

長崎商店負担分 (¥6,000) … 売掛金で処理

(借) 売掛金 6,000

(借) 発送費 6,000

・運賃を「小切手で支払った」

(貸) 当座預金 12,000

5. 商品売り渡し、「商品券」と「他店商品券」を受け取ったときの仕訳を問う問題である。

・「商品売り渡し」より、貸方は売上になる。

(貸) 売上 12,000

・他店商品券を受け取ったときは、他店商品券勘定 (資産) の借方に記入する。

・当社が商品券を発行 (販売) したときは、商品券勘定 (負債) の貸方に記入する。したがって、当社発行の商品券を受け取ったときは、商品勘定の借方に記入する。

(借) 他店商品券 10,000

(借) 商品券 2,000

第 2 問

【解答】

P.83 参照

(1) 商品有高帳 (数量単位：個)

(移動平均法) A 商品

平成 26 年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	
10	1	前月繰越	200	1,200	240,000				200	1,200	240,000
	10	売 上				150	1,200	180,000	50	1,200	60,000
	20	仕 入	450	1,190	※1 535,500				※2 500	※4 1,191	※3 595,500
	25	売 上				280	1,191	333,480	220	1,191	262,020
	31	次月繰越				220	1,191	262,020			
			650		775,500	650		758,500			

(2)

売上高	売上原価	売上総利益
¥ 865,600	¥ 513,480	¥ 352,120

【解説】

POINT

- ・商品有高帳を作成する場合
 - ① 商品の種類別に記帳する
 - ② すべて仕入原価で記帳する（10 日の@¥2,000、25 日の@¥2,020 は売却したときの単価であるから、商品有高帳を記入する時には使用しないことに注意する）
- ・※1 仕入原価で記帳するため、引取費用を加算した金額である。

20 日 (借) 仕入 535,500 (貸) 買掛金 531,000

↑

現金 4,500

仕入原価
- ・※2～※4
 - ※2 50 個 + 450 個 = 500 個
 - ※3 ¥60,000 + ¥535,500 = ¥595,500
 - ※4 ¥595,500 ÷ 500 個 = ¥1,191
- ・売上高 (150 個 × @¥2,000) + (280 個 × @ ¥ 2,020) = ¥865,600
 10 月 10 日 10 月 25 日
- ・売上原価 商品有高帳の「払出欄」の金額が売上原価である
 ¥180,000 + ¥333,480 = ¥513,480
 10 日 25 日
- ・売上総利益
 ¥865,600 - ¥513,480 = ¥352,120
 売上高 売上原価 売上総利益

第 3 問

【解答】

合計残高試算表

平成 26 年 1 月 31 日

貸方残高	借方合計	勘 定 科 目	貸方合計	貸方残高
215,000	235,000	現 金	20,000	
550,000	1,230,000	当 座 預 金	680,000	
238,000	518,000	受 取 手 形	280,000	
594,000	896,000	売 掛 金	302,000	
390,000	390,000	繰 越 商 品		
	50,000	前 払 金	50,000	
	60,000	前 払 家 賃	60,000	
15,000	15,000	仮 払 金		
800,000	800,000	備 品		
	120,000	支 払 手 形	244,000	124,000
	354,000	買 掛 金	698,000	344,000
		前 受 金	25,000	25,000
		預 り 金	15,000	15,000
	6,000	貸 倒 引 当 金	31,000	25,000
		備品減価償却累計額	240,000	240,000
	1,000	資 本 金	2,200,000	2,199,000
	10,000	売 上	518,000	508,000
469,000	473,000	仕 入	4,000	
145,000	145,000	給 料		
60,000	60,000	支 払 家 賃		
4,000	4,000	水 道 光 熱 費		
3,480,000	5,367,000		5,367,000	3,480,000

【解説】

- 繰越試算表について

P.53, 180 参照

繰越試算表は、資産・負債・純資産の次期繰越額で作成する。なお、(A)の繰越試算表は決算整理後の繰越試算表である。

- 解答の手順

① 1 月中の取引を仕訳する。このとき、前払家賃勘定について再振替仕訳を行う。

② 繰越試算表に①の金額を加減して、1 月末の合計残高試算表を作成する。

<仕訳>

・ 1.	①	(借) 現 金	25,000	(貸) 前 受 金	25,000	
	②	(借) 現 金	36,000	(貸) 売 掛 金	36,000	
	③	(借) 現 金	100,000	(貸) 当座預金	100,000	
	④	(借) 仮 払 金	15,000	(貸) 現 金	15,000	P.113 参照
	⑤	(借) 水道光熱費	4,000	(貸) 現 金	5,000	P.119 参照
		資 本 金	1,000			
2.	①	(借) 当 座 預 金	130,000	(貸) 受 取 手 形	130,000	
	②	(借) 当 座 預 金	250,000	(貸) 売 掛 金	250,000	
	③	(借) 仕 入	130,000	(貸) 当 座 預 金	130,000	
	④	(借) 買 掛 金	200,000	(貸) 当 座 預 金	200,000	
	⑤	(借) 支 払 手 形	120,000	(貸) 当 座 預 金	120,000	
	⑥	(借) 現 金	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000	
	⑦	(借) 給 料	130,000	(貸) 預 り 金	15,000	
				当 座 預 金	115,000	
3.	①	(借) 仕 入	130,000	(貸) 当 座 預 金	130,000	
	②	(借) 仕 入	33,000	(貸) 支 払 手 形	33,000	
	③	(借) 仕 入	260,000	(貸) 買 掛 金	260,000	
	④	(借) 仕 入	50,000	(貸) 前 払 金	50,000	P.110 参照
	⑤	(借) 買 掛 金	4,000	(貸) 仕 入	4,000	
4.	①	(借) 受 取 手 形	158,000	(貸) 売 上	158,000	
	②	(借) 売 掛 金	360,000	(貸) 売 上	360,000	
	③	(借) 売 上	10,000	(貸) 売 掛 金	10,000	
5.	①	(借) 支 払 家 賃	60,000	(貸) 前 払 家 賃	60,000	P.160 参照
	②	(借) 買 掛 金	150,000	(貸) 受 取 手 形	150,000	p96 参照
	③	(借) 貸 倒 引 当 金	6,000	(貸) 売 掛 金	6,000	P.150 参照

※ 二重仕訳の削除

2. の③と、3. の①は同じ取引である。

そこで、2. では当座預金を残し、(借) 仕入を削除し、

3. では仕入を残し、(貸) 当座預金を削除する。

また、

1. の③と、2. の⑥は同じ取引である。

そこで、1. 現金を残し、(貸) 当座預金を削除し、

2. では当座預金を残し、(借) 現金を削除する。

なお、単純に一方の仕訳をまるごと削除しても解答には影響はない。

<合計残高試算表の作成>

例、現金勘定

合計残高試算表

平成 26 年 1 月 31 日

貸方残高	借方合計	勘 定 科 目	貸方合計	貸方残高
③ 215,000	① 235,000	現 金	② 20,000	

① $¥74,000 + ¥25,000 + ¥36,000 + ¥100,000 = ¥235,000$
 繰越試算表 1. ① 1. ② 1. ③

② $¥15,000 + ¥5,000 = ¥20,000$
 1. ④ 1. ⑤

③ ①－② なお、残高は大きい金額 (①) の方 (借方) に生じる

第 4 問

【解答】

①	②	③	④	⑤
20,000	買掛金	50,000	売掛金	300,000

【解説】

(1) 取引の仕訳 (借) 仕 入 220,000 (貸) 現 金 20,000
買掛金 200,000

P.129, 130 参照



<全額を掛取引として起票する方法>

(借) 仕 入 220,000 (貸) 買掛金 220,000 … 振替伝票
買掛金 20,000 現 金 20,000 … 出金伝票

<取引を分解して起票する方法>

(借) 仕 入 20,000 (貸) 現 金 20,000 … 出金伝票
仕 入 200,000 買掛金 200,000 … 振替伝票

※振替伝票の借方が「仕入 220,000」から、(1) の取引は、全額を掛け取引として起票する方法であることがわかる。

出金伝票 科目は買掛金、金額は¥20,000

振替伝票 貸方科目は買掛金 である。

(2) 取引の仕訳 (借) 現 金 50,000 (貸) 売 上 350,000
売掛金 300,000

P.129, 130 参照



<全額を掛取引として起票する方法>

(借) 売掛金 350,000 (貸) 売 上 350,000 … 振替伝票
現 金 50,000 売掛金 50,000 … 入金伝票

<取引を分解して起票する方法>

(借) 現 金 50,000 (貸) 売 上 50,000 … 入金伝票
売掛金 300,000 売 上 300,000 … 振替伝票

※入金伝票の科目が「売上」から、(2) の取引は、取引を分解して起票する方法であることが分かる。

入金伝票 金額は¥50,000

振替伝票 (借) 売掛金 300,000 (貸) 売上 300,000 である。

第 5 問

【解答】

貸借対照表

平成 25 年 12 月 31 日

現 金	(258,000)	支払手形	140,000
当 座 預 金	556,000	買 掛 金	505,000
受 取 手 形 (180,000)		未払費用	(9,000)
売 掛 金 (420,000)		前受収益	(8,000)
(貸 倒 引 当 金) (18,000)	(582,000)	資 本 金	1,580,000
有 価 証 券	220,000	当期純 (利 益)	(271,000)
商 品	(205,000)		
消 耗 品	(2,000)		
前 払 費 用	(90,000)		
貸 付 金	300,000		
備 品 (600,000)			
減価償却累計額 (300,000)	(300,000)		
	<u>(2,513,000)</u>		<u>(2,513,000)</u>

損益計算書

平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日

売 上 原 価	(2,947,000)	売上高	4,030,000
給 料	(314,000)	受取配当金	3,000
貸倒引当金繰入	(11,000)	受取利息	(4,000)
(減 価 償 却 費)	(100,000)		
支 払 家 賃	(360,000)		
水 道 光 熱 費	12,000		
消 耗 品 費	(21,000)		
(雑 損)	(1,000)		
当期純 (利 益)	<u>(271,000)</u>		<u>(271,000)</u>
	<u>(4,037,000)</u>		<u>(4,037,000)</u>

【解説】

[決算整理事項]

1. 現金過不足の処理

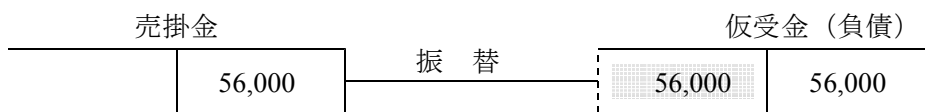
P.169 参照

(借) 雑 損 1,000 (貸) 現 金 1,000

- ・決算日になって現金過不足が判明したときは、過不足額を雑損または雑益勘定で処理する。
- ・ここでは、現金の帳簿残高が¥259,000、実際有高が¥258,000 (¥236,000 + ¥22,000) であるから、現金不足が¥1,000 発生している。そこで、雑損勘定の借方と現金勘定の貸方に記入する。
- ・得意先振出しの約束手形は現金勘定ではないことに注意する。

P.113 参照

2. 仮受金は売掛金の回収であることが判明したので、仮受金勘定から売掛金勘定へ振り替える。



(借) 仮受金 56,000 (貸) 売掛金 56,000

3. 貸倒引当金の設定

P.148 参照

(借) 貸倒引当金繰入 11,000 (貸) 貸倒引当金 11,000
 -費用- -受取手形・売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額

$$\begin{aligned} & \text{受取手形期末残高} \quad \text{¥180,000} \\ & \text{売掛金期末残高} \quad \text{¥420,000} \quad \left(\begin{array}{l} \text{残高試算表} \\ \text{¥476,000} \end{array} \right) \quad - \quad \begin{array}{l} \text{決算整理事項等 2} \\ \text{¥56,000} \end{array} \\ & \text{貸倒引当金繰入額} \quad \left(\frac{\text{¥180,000}}{\text{受取手形}} + \frac{\text{¥420,000}}{\text{売掛金}} \right) \times 3\% - \text{¥7,000} = \text{¥11,000} \\ & \hspace{15em} \text{貸倒引当金残高 (残高試算表)} \end{aligned}$$

4. 売上原価の計算

P.143 参照

(借) 仕 入 192,000 (貸) 繰越商品 192,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)
 (借) 繰越商品 205,000 (貸) 仕 入 205,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

5. 消耗品費勘定の整理

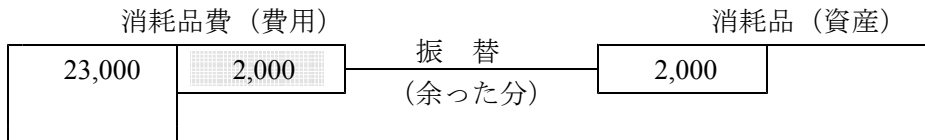
P.162 参照

(借) 消 耗 品 2,000 (貸) 消耗品費 2,000
 -資産- -費用-

確認 消耗品については次の二つの会計処理法がある。

	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法	購入したとき消耗品勘定で処理する方法
購入時	消耗品費 ×× -費用- 現金預金 ××	消耗品 ×× -資産- 現金預金 ××
決算日	未使用高 ↓ 消耗品 ×× -資産-	使用高 ↓ 消耗品費 ×× -費用-

※この問題では、決算整理前残高試算表に消耗品費勘定があることから、
購入したとき消耗品費勘定（費用）で処理していることがわかる。そこで、
当期末使用高を消耗品費勘定（費用）から消耗品勘定（資産）に振り替える。



6. 減価償却費の計上（定額法）

P.154 参照

(借) 減価償却費 100,000 (貸) 備品減価償却累計額 100,000
 -費用-

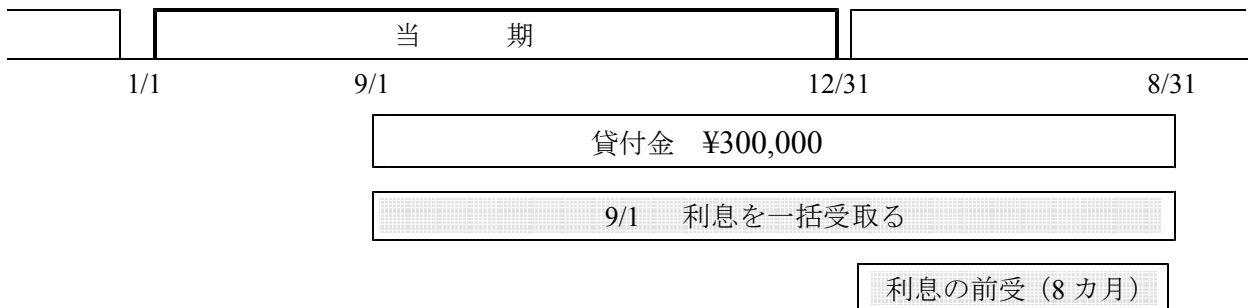
※減価償却費の計算（定額法）

$$\langle \text{備品} \rangle \frac{\text{取得原価} \quad \text{残存価額}}{\text{耐用年数}} = \frac{\text{¥600,000} - \text{¥0}}{6 \text{年}} = \text{¥100,000}$$

7. 前受利息の計上（収益の繰延べ）

P.163 参照

(借) 受取利息 8,000 (貸) 前受利息 8,000
 -負債-



※ 前受利息の計算

$$\text{¥300,000} \times 4\% \times \frac{8 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = \text{¥8,000}$$

8. 未払給料の計上（費用の見越し）

P.165 参照

(借) 給料 9,000 (貸) 未払給料 9,000
 -負債-

9. 前払家賃の計上（費用の繰延べ）

P.160 参照

(借) 前払家賃 90,000 (貸) 支払家賃 90,000
 -資産-

※ 前払額を支払家賃勘定（費用）から差し引くとともに、次期に繰り越すために前払家賃勘定（資産）に計上する。

	当 期	
1/1		12/31
	支払家賃 (¥450,000)	
	当期分	前払額 ¥90,000

POINT 貸借対照表・損益計算書作成する場合

1. それぞれの勘定が、資産なのか、負債なのか、費用なのか正しく理解する。
 資産…前払家賃、消耗品
 負債…未払給料、前受利息
 費用…減価償却費、消耗品費、貸倒引当金繰入、雑損
2. **繰越商品**勘定の残高は B/S では「**商品**」として記載する。
貸倒引当金は売掛金勘定から控除する形で B/S に記載する。
減価償却累計額は備品や建物などから控除する形で B/S に記載する。
仕入勘定の残高は P/L では「**売上原価**」として記載する。
売上勘定の残高は P/L では「**売上高**」として記載する。
 前払家賃は「**前払費用**」、未払給料は「**未払費用**」、前受利息は「**前受収益**」として B/S に記載する。